

被爆遺構展示館は、被爆の実相を直接見て肌で感じていただけるよう、被爆遺構を露出展示しています。この被爆遺構を通じ、平和記念公園を訪れる人々に、「この地」にはかつて多くの人が暮らしやすかったこと、そして「この地」に暮らしていた人々の日常があった一発の原子爆弾により一瞬にして失われてしまったこと、そして被爆後の先人たちのたゆまぬ努力により「この地」が平和の象徴としての公園として整備され、平和で美しい町として復興を遂げたことをご覧ください。

旧中島地区被爆遺構について

この平和記念公園一带には、被爆前、民家や商店等が密集し、人々の日常の営みやにぎわいがありました。被爆後、盛土をし、公園として整備したため、公園の下の一部には被爆当時の建物の基礎等が今も残っており、2019年（令和元年）に行った調査の結果、地面から60～90cm程度掘り下げたところに残る被爆当時の民家や道路の跡などが見つかりました。



展示範囲 (3.2m × 3.2m)

調査の際に掘削した範囲



①炭化した土、板材等

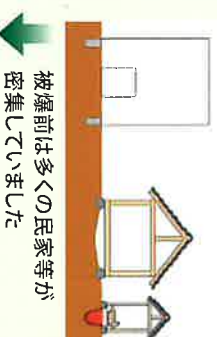
②側溝

③隣家との境界 (石材列)

④盛土層

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館には、同館建設時に採取した地層の断面標本が展示されています。

積層の成り立ち (平和記念公園の 整地の過程)



被爆前は多くの民家等が密集していました



被爆直後、爆風・熱線等で破壊されました



瓦礫の片付け・平坦化が行われました



土入れ・整地がされました

